



で き ご と

10月28日(月)、グランシップを会場に「静岡県図書館大会」が開催されました。

午後はテーマ別に分かれて事例発表や講義などの分科会が行われました。子どもの本に関しては、第2分科会が「赤ちゃん絵本とわらべうた～読んでみよう、絵本 歌ってみよう、わらべうた」をテーマに開かれました。

福音館書店で編集者を勤め、現在は童話作家として活躍なさっている荒川薫氏から、前半は赤ちゃんに絵本を読み聞かせる意義や目的、絵本の選び方をお話しいただき、後半はわらべうたと童謡の違いなどに触れた後、荒川氏のご指導のもと、参加者全員でわらべうたを10曲一緒に歌って楽しみました。

(2ページ目にて、概要を紹介します)

11月14日(木)、掛川市立中央図書館を会場に、県立中央図書館新刊児童図書巡回展示研修会を開催しました。

当館職員による「新刊児童図書紹介」、県総合教育センター学校図書館担当指導主事による「学校図書館充実のための選書のあり方」のお話の後、「新刊児童書の選書について—公共図書館の視点から—」と題して、元浜松市立中央図書館長でもあり、司書として長く児童サービスに携わってこられた松本なお子氏に講義をしていただきました。講義終了後は、会場に並んだ新刊児童図書と当館で選定した図書の約1,000冊を閲覧してもらい、また、選書に関する個別の相談に応じました。

(3ページ目にて、概要を紹介します。)

◇子ども図書研究室のテーマ展示◇

- ◆「一番新しいクリスマスとお正月の本」
クリスマスとお正月の本を集めました。
- ◆「第25回 読書感想画中央コンクール指定図書」
今回の指定図書を展示しています。

◇イベント情報 その1◇

◆新刊サロンのご案内

新刊を囲んでおしゃべりしませんか?

第4回 12月18日(水) 10:30~

※今年度はこれで終了となります。

会 場：県立中央図書館 子ども図書研究室

申込み：来館・電話・メールまたはFAXのいずれかの方法でお申し込みください。開催約1か月前からHPのイベント情報ページに案内を出し、受付をします。なお、当日のご参加も可能です。

問合せ：県立中央図書館 資料課

静岡市駿河区谷田 53-1

TEL:054-262-1243

FAX:054-264-4268

◇イベント情報 その2◇

◆国際子ども図書館 展示会

「日本の子どもの文学—

国際子ども図書館所蔵資料で見る歩み」

児童文学者コーナー 第6回 那須正幹

国際子ども図書館では、2011年2月から「日本の子どもの文学」と題して所蔵資料の展示会を行ってきましたが、数回の展示替えを経て、いよいよ最終回の展示となりました。明治から現代に至るまでの時代を彩った代表的な児童文学作家・画家の作品を紹介します。文学を通して子どもたちに何が届けられていったのか、資料を見ながらたどっていく展示会です。

開催期間：平成26年2月23日(日)まで

時 間：午前9時30分~午後5時

休 館：月曜日、国民の祝日・休日、年末年始(12月28日~1月4日)、12月18日、1月15日、2月19日(資料整理休館日)

会 場：国際子ども図書館 本のミュージアム
※入場無料

〒110-0007 東京都台東区上野公園 12-49

TEL:03-3827-2053(代表)

TEL:03-3827-2069(録音による案内)

元 福音館書店編集者で童話作家の荒川薫氏から、前半は赤ちゃんに絵本を読み聞かせる意義や目的、絵本の選び方をお話いただきました。後半は、わらべうたと童謡の違い、わらべうたの現状についての解説の後、荒川氏のご指導のもと、参加者全員でわらべうたと一緒に歌って楽しみました。



時 々「赤ちゃんに絵本を読み聞かせるのは無理なのではないか」という意見を耳にします。それは、絵本の読み聞かせを通じて、知識を伝えようとしているから生まれる意見です。赤ちゃんに対する読み聞かせは、一緒に楽しむことが目的です。例えば、平山和子さんの『くだもの』を読むときには、くだもの名前を「これは何？」と赤ちゃんに尋ねるのではなく、一緒にパクパク食べて楽しむことが大切です。

赤 ちゃん絵本の選び方は、「ブックスタート 赤ちゃん絵本20冊」(ブックスタート・ニュースレター)、『ぼくの絵本私の絵本』(プランニング遊)などが参考になります。こころよいことは、くりかえし、明快な絵、聞き手と共に楽しむことができる、これらの条件に合う絵本がいいでしょう。

赤 ちゃんに絵本を手渡す活動として、ブックスタートが各地で行われています。ブックスタートは、子どもと一緒に過ごす時間、楽しみを共有する時間のスタートでもあります。そのため大切なのは笑顔。読み聞かせをする人は緊張しないで、親子両方に楽しんでもらえるようにしましょう。



わ らべうたは、どの国にもある唱(とな)え歌で、昔から歌い継がれ、遊び継がれたものです。大正時代に生まれた童謡とは違って、作詞・作曲者がわからないことが多く、音程もあまり上下しません。開始音も決まっていない

ので、自分が好きなように歌っていいですし、地域で歌い方に違いがあっても構いません。

今 から50年前、わらべうたは2,000曲ほどが歌われていたそうです。ところが、その10年後にはほとんど歌われなくなってしまいました。1960年代から70年代にかけての日本の高度経済成長期に都市化が進み、ライフスタイルが一変したからです。これから未来へわらべうたを伝承していくために、今、わらべうたで子どもと一緒に遊ぶことが大切です。すぐに昔のようになるわけではないけれども、わらべうたが子どもたちの耳に入ることで次の世代につながります。その時、わらべうたを教えようとはせず、一緒に遊んで楽しんでください。



後 半は荒川氏のご指導で「ぎっちょぎっちょ」「にぎりぱっちり」「おやゆびねむれ」「ととけっこう」「このここのこ」「もどろもどろ」「たんぼぼ」「こまんか」「あめこんこん」「さよならあんころもち」を歌い、おはなし会で歌う時の心構えも教えてくださいました。「おはなし会で、絵本と絵本の間にはわらべうたを入れてもいいですが、気分を変えて次の絵本に集中させるために入れるのはよくありません。あくまで、わらべうたを楽しむためにプログラムに組み込むべきです。」

講 演中、何度も荒川氏がおっしゃっていたことが「楽しむこと」です。読み聞かせも、わらべうたも、純粹に楽しむことこそが大切なのだと改めて感じました。

所蔵資料から

知識



『にほんのわらべうた』1~4
福音館書店
近藤 信子・柳生 弦一郎 著
2001年4月

講演中に荒川氏が紹介した本。1~3には、わらべうたが遊び方のイラストや写真付きで118曲掲載されています。4は1~3までの全曲の楽譜と歌のCD編です。(青木)

県立中央図書館 新刊児童図書巡回展示研修会

新刊児童図書紹介では、2012年の出版状況とその特徴、富士山世界文化遺産登録に関連して出版された図書や、既刊書の続編、新訳や復刊状況などの紹介をしました。

次に、県総合教育センターの飯島指導主事から、「学校図書館充実のための選書のあり方」と題して、お話しいただきました。完全実施となった学習指導要領の考え方として、言語活動の充実には学校図書館の活用が欠かせないと明言されていることを挙げ、学校全体を巻き込んで図書館活動を充実して欲しいと述べられました。また、「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」において、「読書の量を増やすことのみならず、読書の質をも高めていくことが学校に求められる役割である」と、読書の質について触れていることを紹介されました。その他、学校図書館の機能や利用される学校図書館の蔵書についてなど、基本的な事項をお話しいただきました。

その後には、松本なお子氏から「新刊児童図書の選書について一公共図書館の視点から」と題して講義をしていただきました。

個々の資料の評価と選書の前には、選書方針・蔵書構成（現状）・役割（収集分担）・利用状況・予算を確認する必要があります。

蔵書構成で考えるべきことは、基本図書（蔵書の核となる長く読み継がれてきた資料）と更新図書（時代や状況に合わせて更新していく資料、地域や子どもの状況を反映した資料）のバランスが適切かということです。

予算（児童図書費）配分に際しては、まず基本図書の買い替えや買い足しを行います。どんなによい本であっても、背が焼けてタイトルが読めなかったり、ぼろぼろだったりしては魅力は半減します。あるいは、基本図書が

人気でいつも貸出中であれば、買い足すという判断をします。次に何らかのコーナーを設置していれば、その充実で、その次に、新刊図書にいくら使えるかということを考えていきます。

選定の方法には現物選定とリスト選定があります。どちらにもメリットとデメリットがあるので、リスト選定も行いながら、必要に応じて現物選定も行うほうがよいでしょう。子どもの本は、大人の本と違い、買い急ぐ必要はありません。見極めのつくものから買い、リストでどうかしらと思われたものは保留しておき、県立中央図書館の全点収集資料などを利用して内容を確認してください。1冊1冊大切に買うことが重要です。

松本講師のお話については、昨年度発行の「子ども図書研究室だより」第65号にも報告があります。併せてご覧ください。（当館ウェブサイトからご覧いただけます。）

講義の後には、今年6～8月に発行された新刊全点資料を閲覧しながら、参加者からの質問、相談を受けました。子ども図書研究室の新刊は、発行後6か月を過ぎていなくても、県内市町立図書館での館内閲覧ができますので、どうぞご利用ください。



所蔵資料から

文学

『ブラジルのむかしばなし』

1～3

カメの笛の会／編

東京子ども図書館

2011年3月、2013年3月



「新刊児童図書紹介」で紹介した本。日本語とポルトガル語で読むことのできる昔話集。現在、公共・学校図書館へは1セット寄贈してもらえます。（鈴木）

知識

『サウジはともだち』



サウジアラビア王国大使館 文化部／編集
 峯岸 千絵／作画
 サウジアラビア王国大使館 文化部／発行
 2013年3月

サウジアラビアの小学4年生ハサンの暮らしを、イラスト中心の絵本形式で親しみやすく紹介する。民族、言語、イスラーム法学の授業など、日本と異なる点が多い。一方で、子どもたちの遊びは、鬼ごっこやハンカチ落としなど、似ている点もあり、興味をそそられる。日本からの距離はあるが、子どもの生活が簡潔に理解でき、サウジアラビアという国がより身近に感じられる。

発行所であるサウジアラビア大使館からの寄贈図書。【小学校中学年から】 (鈴木)

文学

『おれがあいつで
あいつがおれで』



山中 恒／作
 そが まい／絵
 童話館出版
 2013年7月

6年生の斉藤一夫と斉藤一美は、名前が一字違いの幼なじみである。ある日ふたりは、古い地蔵堂の前で、体が入れ替わってしまう。最初はその状況に戸惑うが、次第に相手の気持ちを思いやるようになる。ストーリー展開の中で、ふたりの成長の様子が非常に生き生きと描かれている。原作は今から約30年前の1980年に出版されたものだが、あまり古さを感じさせない。自分と性別の違う誰かと、体と心が入れ替わるというテーマには、古くて新しいインパクトがある。【小学校高学年から】 (小松)

知識

『毎日新聞社
記事づくりの現場』



深光 富士男／文・取材
 佼成出版社
 2013年8月

本書は、新聞の歴史、新聞社の組織について概略を述べた後、毎日新聞の社会部記者、写真記者、論説委員、校閲記者のそれぞれ1人にスポットを当て、新聞がどのように作られるかを描く。その後、新聞の新しい形であるデジタル新聞についても触れる。本書を通じて、記事が出来上がるまでのドラマや、校閲記者の使命感、紙媒体とネット配信の違いなど、新聞の舞台裏を具体的に知ることができる。それらを知ると、新聞を一字一句読み飛ばさずにじっくりと読みたくなる。【小学校高学年から】 (青木)

知識

『カブトムシ山に帰る』



山口 進／著
 堀 真由美／イラスト
 汐文社
 2013年8月

「大きくて強い」イメージを覆す小さなカブトムシが奥山にいる。これは、カブトムシが奥山から里山へ生息場所を移す前の姿であり、里山の減少により、再び奥山に帰ったからではないかと著者は考える。里山には、幼虫の食べ物であり住みかでもある腐葉土が十分にあり、それで大きなカブトムシが生まれていたのだ。

人間による自然破壊が問題になる一方、人の手が入らないと壊れてゆくのが里山の環境である。自然と人間とが関わり続けることの大切さがわかる。【小学校高学年から】 (杉田)